

らしっく

自分らしく、粋な暮らし

2006.3
雲雀号
Vol.14



らしっくは、自分らしく、
粋な暮らしを目指す人々を
応援する情報誌です。

広島市まちづくり市民交流プラザ情報誌

ドレミファらしっく

「受け継ぐ」
広島駅前市場
ドルトムント電車
日本野鳥の会広島県支部
茶臼山を愛し復元する会
近菜高長朝市出荷組合

ひろしまぐるっと八区
(中区) 南の風の街EBAを創る会
江波漕伝馬保存会

らしっく

広島市まちづくり市民交流プラザ情報誌

「らしっく」は、自分らしくの“らしく”と
粋(な)という意味の“シック(chic)”
を合わせた造語です。

2006.3
雲雀号
Vol.14



タイトルの「雲雀」は空高く舞い上がり、
朗らかにさえずる春の鳥。
その力強い飛翔に、
広島市のまちづくりへの思いを込めました

2 ビビッとしっくに

広島駅前市場
ドルトムント電車
日本野鳥の会広島県支部
茶臼山を愛し復元する会
近菜高長朝市出荷組合

8 ひろしまぐるっと八区

(中区) 南の風の街EBAを創る会
江波漕伝馬保存会

10 よりみちデポ

安東公民館

12 おもしろPレポート

株式会社マルコシ

14 おもしろPスポット

見学・体験スポット

15 らしっくCafé

まちづくりを学ぶ

16 Hキャンパス

広島県立図書館 来いぶらリネット

18 達人図鑑

マジック、バルーンアート、伝承遊び 小林繁子さん
インドに関する講演 ジェームス ジョーセフさん

20 まちづくり学校

「まち学生 まちへ飛び出せ!」の巻

22 Hm² 通信

ふむふむ参加団体活動レポートの巻!

24 プラザ通信

26 らしっく情報の森

29 らしっく広場

30 てくてく街道散歩

被爆樹木を巡る

われしました。詩吟と歌を合わせた「吟詠歌謡」や、大河ドラマ「義経」ゆかりの詩吟「ああ、壇ノ浦」など、約10曲を熱唱。小牧さんの歌を聞きながらメロディーを一緒に口ずさむ人、マイクを渡されて自慢の歌声を披露する人など、会場が一つになって小牧さんの歌を楽しみました。この施設の吉田紀男事務長は、「わたしも詩吟を学んでいる縁で、3年前から小牧さんにボランティアに来てもらっています。皆さん毎回楽しみにしておられますし、わたし自身も楽しみです」と笑顔で語ってくださいました。

詩吟の魅力は、季節やTPOに合わせて選曲ができること。また大きな声を出すので、脳の活性化にもなります。不便だと感じたらそのままにせず、何事も自分の力で乗り越えていくパワーが、小牧さんの可能性を広げているようです。

問合せ：082・842・2866 (小牧さん)



みんなで一緒に歌います



小牧さんの歌声は
人に元気を与えます

昨年12月15日、五日市にある「デイサービスセンターさくらんぼ」で、小牧さんのボランティアによるショーが行なわれました。50歳の時に看護師長として働いていた病院を退職し、キングレコードからCDも出した小牧さんは、積極的にボランティアに取り組み始めます。看護師仲間の口コミにより、「うちの施設に慰問に来てほしい」という出演依頼も来るようになりました。「自分で司会をしたなら、納得いく出来ではありませんでした。そこで上手に司会をするために、話し方を習いました。着物を着る必要があるので、着付けも習いました。必要だと思った時に必要な物を習い、完璧にマスターするまで続ける。これが私のポリシーです」と小牧さん。平成16年には五日市中学校から依頼を受け「話し方教室」を実施するなど、自分の知識を伝えるために幅広い活動を精力的に行っています。

小牧裕美さんは、23歳の時に人生設計を立て「50歳になったら、ボランティアに自分の人生を注ぐ」と決めました。結婚・出産後は子どもを保育園に預けて午前中だけ働いていたのですが、そうすると午後の時間が空いてしまいます。「暇な時間があったくない」と感じた小牧さんは、詩吟を学ぶことにしました。小さい頃から声を出すことが好きで、詩吟であれば歴史を学ぶこともできると考えたからでした。働きながら詩吟を続け、昭和60年に吟詠師範の資格を得ます。仕事に専念するため中断した時期もありましたが、退職後に出場したコンクールでは、みごと入賞を果たしました。



五日市中学校一年生総合学習での授業



思いを熱く語る小牧さん



熱心に学ぶ生徒の皆さん

暮らし

自分らしく豊かに、でもちよっぴりこだわって…。
ついでにまわりのみなさんも巻き込んで、ゆつくりたっぷり楽しんじゃおう!
暮らしっくでは、そんなふうにならなうに広島でスローライフを楽しんでいる人を紹介します。
今回は、自分を磨きながらボランティアに励んでいる、小牧裕美さんの活動を紹介します。



⑤「街頭コラボカフェ」は原則、正午から午後4時まで営業 ⑥市場の歴史にも詳しい石風呂興八郎さん
⑦「駅前の友元さん」は市場のキャラクターとしても大活躍 ⑧ご利益を求めて多くの人が訪れる友元神社

平成17年(2005年)2月、市場に新しいにぎわいづくりをと、空き店舗を活用した「ふれあい工房」を開設。市場の食材を使った料理教室や、留学生が腕をふるう屋台は、訪れた人たちにも好評です。11月には市民ボランティアグループ「がんばる街づくりの会」による「街頭コラボカフェ」が誕生。「コラボ(コラボレーションの略)」とは「共同」を意味します。紅白のひときわ目を引く大きなれんは、活動に参加している広島工業大学の学生による手作りです。毎週金曜日または土曜日に開かれているカフェでは、市場で買った食べ物を持ち込んで、自由に交流を楽しむ事もできます。「人と人とが語り合い、ふれあう事こそが大切」と、会の代表。「ふれあい」という市場ならではの精神は、これからの街づくりにも受け継がれようとしています。

平成21年(2009年)春、東広島駅貨物ヤード跡地の新球場建設に向け、再開発の気運が高まる広島駅周辺。広島駅前市場のある、広島駅南口Cブロック準備組合の中村興夫代表理事は、広島の玄関口としてふさわしいあり方を、長年にわたって広島市や地域住民に訴え続けてきました。民間主導の再開発構想は、各種マスメディアでも大きく取り上げられ、その動向に多くの広島市民が注目しています。



ビビッとアンテナを張り巡らせている人は、いつもvividに(イキイキと)生きています。そんな方々のchic(粋)な活動をご紹介しますこのコーナー。さあ、あなたもビビッと、しっくに暮らしてみませんか?

「受け継ぐ」

昔からある伝統文化や技術、そして人々の熱い思いや祈りを、今私たちはどのように受け入れ、はぐくみ、次世代へつなげて行くか。特徴ある活動を続けている、地域住民や市民団体のエネルギーな広がりが注目されています。

人とのふれあいをこれからも 広島駅前市場

かけがえない自然との共存、町の誇り、温かい人情と人々の絆。どんなに時が流れようと、広島町の町にこれまでもずっと、大切に受け継がれようとしているものがあります。古き良き時代から伝わるものに再生の夢を託し、仲間と共に奮闘する人々の活動を、広島を代表する風景の中からご紹介いたします。



駅前には愛友市場・広島市場・猿猴橋市場の3つの市場が並びます

「味は一流 お店は二流 惜しいことには値が三流 あつまるお客は超一流」。お客さんから寄贈されたという小粋な書に、商人の心意気を感じる酒井商店。年季の入った5つ玉のそろばんは、先代から受け継いで40年以上の現役です。昭和の風情と人情を、今に

「味は一流 お店は二流 惜しいことには値が三流 あつまるお客は超一流」。お客さんから寄贈されたという小粋な書に、商人の心意気を感じる酒井商店。年季の入った5つ玉のそろばんは、先代から受け継いで40年以上の現役です。昭和の風情と人情を、今に

市場の歴史は、戦前の「荒神市場」にさかのぼります。昭和20年(1945年)8月、原爆で廃墟と化した駅前に、終戦から間もなく現れた「闇市」。翌年の取締りを機に並び始めたバラックの店は、「マーケット」と呼ばれるようになりました。現在の市場は、「広島市民の台所」として発展した、昭和30年代の姿を今に残しています。

「昭和50年(1975年)の末ごろまで、通りは毎日のように埋め尽くされるお客さんでいっぱいでした」と、石風呂商店の店主、石風呂興八郎さんは当時を懐かしく振り返ります。都心部の発展と、スーパーや大型店舗の相次ぐ進出により、市場はかつてのにぎわいから少しずつ遠ざかっていきました。

伝わる広島駅前市場

その一角には、空き店舗を利用した仮設の神社がまつられています。平成15年(2003年)、疎開先から58年ぶりに帰郷を果たした「友元神社」。「駅前の友元さん」の愛称でも親しまれ、かつてと同じように市場を見守っています。

①店頭に飾られた書はお客さんからの贈り物 ②「市場の魅力はお客さんとのふれあい」と酒井商店のご主人 ③酒井商店で今も現役、下段が5つ玉の珍しいそろばん ④40年以上にわたり愛されている村戸商店のコロッケ



市場の人気者はベンチでお昼寝中

街おこしの先進地、

横川の「ふしぎ」を訪ねてみよう

横川駅前に降り立って、まず驚くのは濃いグリーンを基調としたダイナミックな駅前広場の空間。ヨーロッパ都市を思わせるような超近代的なイメージを持ちながら、大正時代のモダニズムを感じさせる不思議な場所です。広島の6つの川を表現したという高く連続した屋根や路面電車のホーム、広場を取り囲む商店の建物随所に、基調となるグリーンが使われ、街をあげての心意気を感じます。中央には地元の「広島かよこバス活用委員会」が町民と協力して製作したレトロバスが街のシンボルとして展示されており、その優美な姿を披露しています。これは百年前に横川で走ったという日本で最初の路線バスを復元したものです。

多くの大手産業の発生地でもある横川。地元の企業も積極的に街づくりに協力しています。また市役所や県警、広島市立大学などの協力もあって、広島で最も熱い風が感じられるところになっています。

横川では県内外の町村と連携した「横川ふしぎ市」が毎年開催されています。横川商店街振興組合副理事長の村上正さんは、「多くの人に横川を訪れてもらって、ぜひこの「ふしぎ」を味わっていただきたい」と話しています。



各商店も街づくりに協力



横川の魅力語る村上さん



平成16年(2004年)に再整備された横川駅前

語ろう、歌おう、食べよう ドルトムント電車

原爆が投下され、焦土と化した広島に一台の電車が走ったのは、そのわずか3日後のこと。運転したのは当時勤労学生として広電（広島電鉄株式会社）に勤めていた女学生でした。そうした歴史を経て今、広島市は全国でも珍しい路面電車の走る都市として多

くの人々に親しまれています。従来からあるレトロな電車や最新型の車両のほか、全国の各都市で活躍してその歴史を刻んできた電車も多く走っており、広島市の路面電車は「動く博物館」とも呼ばれています。



クリスマスイベントの運行では会のメンバーがサンタに扮して、乗客を楽しませました

そして昭和56年（1981年）に遠くドイツからやってきたのがこのドルトムント電車。しばらくは一般の路面電車としてその勇壮な姿で市内を走っていました。その後は車庫に大事に保管されており、近年になって車内が改装されイベント用電車として再登場、平成16年（2004年）からは食事をしながら市内を走る展望車に。これは市民や広島を訪れる人々に広島

の楽しさを味わってもらおうと「地域商業を考える会」の呼びかけで、広電などの協力を得て実現されたものです。平成17年（2005年）10月から12月まで、広島県の大規模観光キャンペーン「ええじゃん広島県」の一環として毎週土曜日夜6時から運行することになりました。コースは広島駅を出発後、横川駅・西広島駅を経由して、再び広島駅に戻る約2時間。車内では歌や手品など、会のメンバーによるたくさんの

会長の白井龍彦さんはこれからの取り組みについて「新たに始まった広島市の『生きた交通博物館』事業の中で、路面電車を活用したさまざまな企画電車や、アストラムラインなど広島の特徴ある交通関係施設の魅力を全国に発信していきたいです」と熱く語ります。



「広島を拠点に、乗り物で全国の人々の交流が深まるのが夢」と白井龍彦会長（右）とメンバーの俵浩一郎さん（左）

Information
地域商業を考える会
☎082-832-3101

ドルトムント電車の“顔”。白井会長の似顔絵が目印です



水鳥の飛来する干潟の復活を

日本野鳥の会広島県支部

広島市佐伯区にある八幡川の河口は、昔から市内でも屈指のヒドリガモなどの水鳥の飛来地として知られていました。しかし昭和58年（1983年）に広島県により埋め立て造成の計画が持ち上がったのです。このままでは八幡川河口が人工的な環境になつてしまい、水鳥たちが生息できなくなると

危機感を持った市民が、県に対し水鳥が生息できる環境を作る計画の提言をしました。その結果、県と自然保護の立場の人たちで構成される「人工干潟検討委員会」が発足し、昭和62年（1987年）に全国でも珍しい水鳥のための人工干潟が造成されることになったのです。

埋め立て開始後、激減していた水鳥の飛来数は人工干潟の完成により再び増え始めました。しかし、さまざまな環境要因から干潟は徐々に沈下。それに伴い水鳥の飛来数が減少するなどの問題が発生しましたが、その後修復作業が実施され現在も干潟は維持され続けています。

日本野鳥の会広島支部前支部長の日比野政彦さんは、30年前から八幡川の水鳥たちを観察し、生息数をデータに取り続けてきました。また「人工干潟検討委員会」にも出席し、さまざまな提案を行ってきました。「はなから反対では何も進まない。自然保護の立場から代案を



埋め立て地の水鳥を観察する野鳥の会の皆さん



水鳥について説明する日比野さん

出すなど、干潟復元につなげる努力が必要」という日比野さんの姿勢、そして開発側である県との協力での人工干潟が実現、維持されているといえます。

人工干潟の隣にある埋立地には葦の生い茂る潟湖があり、多くの水鳥たちの格好の飛来地となっています。ここでは普段は入れないこの場所、月に1度、探鳥会を開催しています。探鳥会の主催者でもある日比野さんは、「多



多くの水鳥たちの飛来地になっている、埋め立て地の潟湖

くの種類の鳥が飛来するためには多様な環境が必要。八幡川河口もこの潟湖があるおかげで、水鳥の数や種類が増えている。この現状を少しでも多くの人たちに知ってもらい、関心を持ってもらえれば」と精力的に活動を続けています。

Information
日本野鳥の会広島県支部
☎082-233-7304
※土日の14時～18時のみ